

第1回 ユニバーサルスポーツ分科会 次 第

日時：令和5年11月6日(月) 13:00～15:00

場所：兵庫県民会館 7階 鶴

1 開会

2 あいさつ

3 分科会の設置について

資料1

4 委員紹介

5 座長の選出

6 障害者スポーツの現状と課題、論点整理

資料2

7 閉会

(配付資料一覧)

資料1 分科会の設置について

資料2 障害者スポーツの現状と課題の整理

参考資料1 新展開検討委員会設置要綱、分科会委員会名簿

参考資料2 パラスポーツ交流会及びパラスポーツ体験会の開催について

参考資料3 障害者スポーツ協会だより (2023年夏号)

第1回 ユニバーサルスポーツ分科会 出席者名簿

日時：令和5年11月6日(月) 13:00～15:00

場所：兵庫県民会館 7階 鶴

<委員>

区分	氏名	役職等	備考
有識者	青山 将己	流通科学大学専任講師	オンライン
障害者スポーツ振興団体	増田 和茂	県障害者スポーツ協会理事長	
	三上 善子	ひょうごパラスポーツ指導者協議会副会長	
地域拠点	小俵 千智	県特別支援教育諸学校長会会長	
障害者団体	木村 佳史	県身体障害者福祉協会理事長	
	齋藤 克己	県知的障害者施設協会副会長	
	新銀 輝子	県精神福祉家族会連合会会長	
一般スポーツ団体	樽本 つぐみ	兵庫大学准教授	オンライン
パラアスリート	大矢 勇氣	車いす陸上選手	
	笠本 明里	パラ水泳選手	

※大矢委員の補助参加：岩見一平氏（大矢委員の競技コーチ）

※区分ごとの五十音順。敬称略

<事務局>

役職	氏名
福祉部長	いくやす まもる 生安 衛
同 次長	むらかみ けいいち 村上 恵一
同 ユニバーサル推進課長	あいうら てるゆき 相浦 輝之
同 社会参加支援班長	やまだしんたろう 山田真太郎
同 主幹(パラスポーツ推進・拠点整備担当)	まつだ じゅんご 松田 淳吾
同 主任	やまねまなみ 山根麻奈美

ユニバーサルスポーツ分科会の設置について

1 分科会における協議事項

- (1) 障害者スポーツの普及に関する事。
- (2) アスリートの発掘・育成・強化に関する事。
- (3) 障害者スポーツ指導者等の養成のあり方に関する事。
- (4) 障害者スポーツ拠点施設のあり方に関する事。
- (5) 福祉部局にある障害者スポーツ推進体制に関する事。

2 協議スケジュール（案）（分科会は対面・オンライン併用）

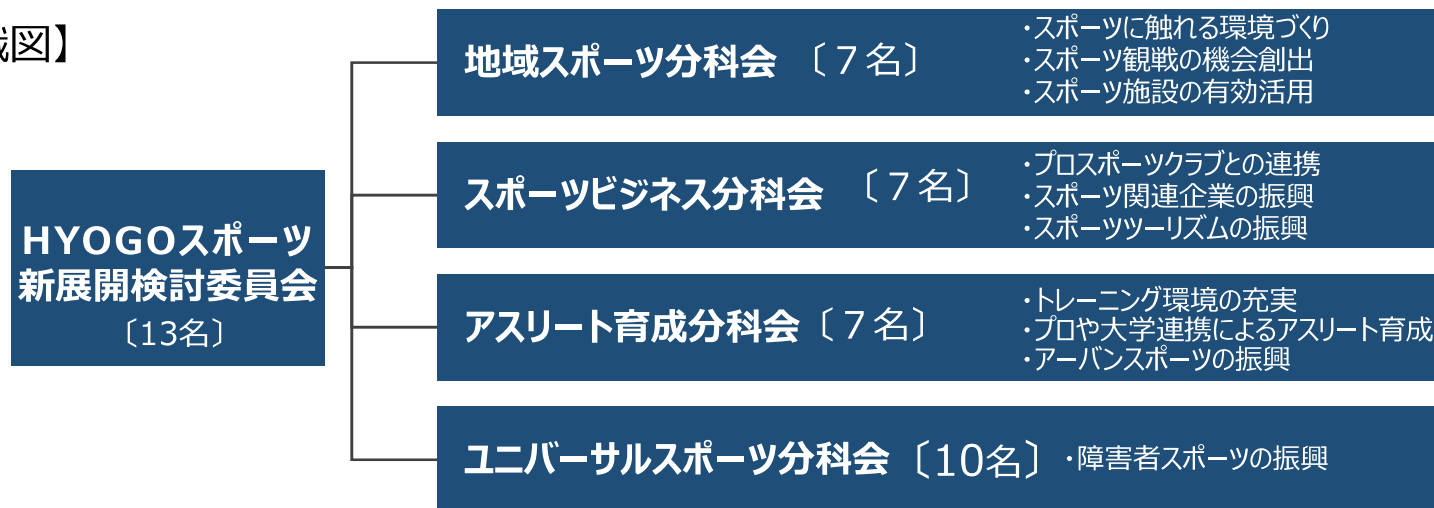
時期	内容等
R5年10月12日	HYOGO スポーツ新展開検討委員会設置【分科会設置】
11月6日	第1回分科会開催(現状と課題の共有、論点整理) 今回
11月8日	第2回分科会開催(ブルボンビーンズドームで第2回パラスポーツ体験会視察等)
11月下旬	第3回分科会開催
12月中旬	第4回分科会開催
R6年1月	第5回分科会開催(分科会意見取りまとめ)
2月	第6回分科会開催(分科会意見取りまとめ)

※課題に応じて、適宜各委員やアドバイザーからの意見聴取を実施

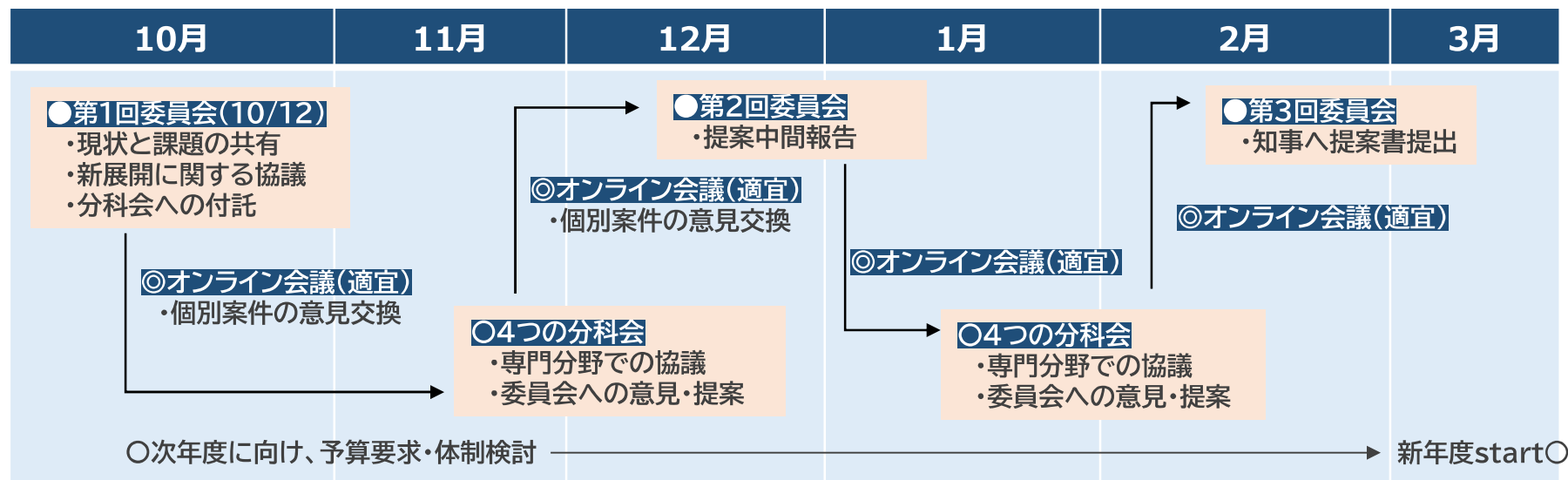
HYOGOスポーツ新展開検討委員会

- 【目的】 ①スポーツが持つ多面的な力を引き出す ②スポーツによって県民生活を豊かにする
③スポーツによって兵庫経済を拡大する

【組織図】



【スケジュール】



HYOGOスポーツ新展開検討委員会 第1回委員会

日時 2023年10月12日（木） 15:00～16:30

場所 兵庫県公館 3階 第1会議室

出席者 齋藤 元彦 兵庫県知事

● 委員メンバー13名 うち出席13名

朝原 宣治 (あさはら のぶはる) 大阪ガスネットワーク株式会社 大阪ガス陸上競技部 副部長

粟井 一夫 (あらい かずお) 株式会社阪神タイガース 代表取締役副社長

井口 岳洋 (いぐち たけひろ) 株式会社毎日放送 スポーツ局長

小野田 金司 (おのだ きんじ) 大阪観光大学 教授

沢松 奈生子 (さわまつ なおこ) 公益財団法人ワールドマスターズゲームズ関西組織委員会 評議員
公益財団法人吉田記念テニス研修センター 評議員

長ヶ原 誠 (ちようかはら まこと) 神戸大学大学院 教授

豊川 聡 (とよかわ さとし) 株式会社神戸新聞社 事業局長

樋口 浩子 (ひぐち ひろこ) 西日本電信電話株式会社 兵庫支店長

増田 和茂 (ますだ かずしげ) 公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会 理事長

松田 卓巳 (まつだ たくみ) 株式会社アシックス スポーツマーケティング総括部スポーツマーケティング部長

八木 かなえ (やぎ かなえ) 金沢学院大学 助教

柳 久恒 (やなぎ ひさつね) 神戸学院大学 准教授

結城 元紀 (ゆっき もとりの) 株式会社三井住友銀行 執行役員 神戸法人営業本部長

● 事務局

井ノ本 知明 (いのもと ちあき) 事務局長 (兵庫県県民生活部長)

小倉 陽子 (おくら ようこ) 事務局次長 (兵庫県県民生活部次長)

進行

- (1) 開会
- (2) 知事あいさつ
- (3) 事務局説明
- (4) 意見交換
- (5) 閉会

検討のテーマ

テーマ1

「地域スポーツの環境づくり」

テーマ2

「スポーツ人材育成のメッカ“兵庫”の形成」

テーマ3

「スポーツビジネスの拡大」

テーマ4

「ユニバーサルスポーツの振興」

協議項目	現状(データ等)	課題	具体的施策案
障害者スポーツの普及	○スポーツ実施率 健常者 52.3%、障害者 30.9% (20歳以上、週1日以上) 【スポーツ庁】	・健常者に比べ障害者のスポーツ実施率が低い ・身近なスポーツとエリートスポーツの二極化	○健常者の利用が多い既存のスポーツの現場への障害者受入の促進
	○県立障害者スポーツ中核拠点施設の利用者数 玉津 H30 84,068 人→R4 66,509 人、西播磨 H30 54,004 人→R4 21,671 人 ○障害者スポーツ出前講座参加人数 H30 41 回、10,615 人→R4 16 回、1,115 人 【県ユニバ課】 ○兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会参加選手数 H30 1,938 人→R5 1,168 人 【県ユニバ課】	新型コロナウイルスにより障害者スポーツへの参加意欲等が減退	○パラスポーツ体験会の充実 ○パラスポーツ出前講座の充実
	・R5 年齢別参加者数 10代以下(16人:4.6%)、20代(21人:6.1%)、30代21人(6.1%)、40代(35人:10.1%)、50代(70人:20.3%)、60代(72人:20.9%)、70代以上(110人:31.9%) ・R5 参加者の地域別状況 神戸9、阪神南50、阪神北25、東播磨50、北播磨54、中播磨34、西播磨81、 <u>但馬</u> 8、丹波32、 <u>淡路</u> 2 ※ただし、身体障害選手のエントリーに係る内訳(345人)	・参加選手の高齢化 ・参加地域の偏り	▶特別支援学校向け出前講座の充実 ▶参加者の少ない地域での啓発活動の充実
	・R5 種目別参加者数 車いす(45人:3.8%)、卓球精神(17人:0.1%)、卓球身体(102人:8.7%)、水泳(88人:7.5%)、バレー精神(20人:1.7%)、バスケ(40人:3.4%)、ボウリング(40人:3.4%)、ボッチャ(13人:1.1%)、 <u>陸上</u> (337人:28.9%)、 <u>FD</u> (209人:17.9%)、ソフトボール(66人:5.7%)、 <u>サッカー</u> (150人:12.8%)、STT(41人:3.5%) ※下線の3種目で約6割の参加者数	・参加種目の偏在化	▶出前講座の充実 ・不人気種目の講座展開 ▶ユニバーサルスポーツの創発 ・誰もが参加しやすい魅力のあるスポーツ
	○全国障害者スポーツ大会選考基準 【県ユニバ課】 ・選考基準(個人競技)：スポーツを通じた障害者の社会参加促進をめざし、出場選手全体に占める初出場枠を2分の1以上確保 再出場については、競技力向上に向け、各競技の特性、これまでの出場回数及び若手選手育成の観点等を踏まえ選考 等	・再度の参加を認めている。	○障害者の社会参加の趣旨に立ち返った選考方法の見直し ・再出場は認めないなど
	○圏域別イベント開催数 【県ユニバ課】 ・パラスポーツ王国実施状況(神戸市：しあわせの村) H30 2,576 人→R4 3,510 人 ・兵庫県障害者スポーツフェスティバル開催支援事業圏域毎の助成件数 (上限10件) R4:神戸3、阪神南0、阪神北1、東播磨3、北播磨1、中播磨0、西播磨0、但馬1、丹波1、淡路0 R3:神戸2、阪神南0、阪神北1、東播磨2、北播磨0、中播磨1、西播磨0、但馬1、丹波1、淡路1	・都市部では障害者スポーツイベントが活発な一方、地方部ではイベント数が相対的に少ない。 ・パラスポーツ単独で行っても人が集まりにくい。	○地方部でのイベント充実 ・圏域の状況に応じた参加しやすい普及イベントの実施検討
	○障害者スポーツ応援協定締結団体 H30 78 団体→R4 89 団体 【県ユニバ課】 ・締結団体による県との連携イベント等の開催数 マルチサポート交流会(体験教室・技術指導)H30:5回→R4:4回	・締結団体は増加している一方、連携イベント数は大きな変化なし ・締結団体との間で定期的な会合もなく、相互理解が不十分	○官民連携イベントの充実 ○定期的な会合など締結団体との取組の強化、情報の集約化(例：応援協定だよりの発行)
	○民間施設等での障害者対象スポーツイベントの実施状況 【県ユニバ課】 ・R5 兵庫県下における障害者スポーツ・レクリエーション行事予定：157 ○民間施設等での障害者スポーツの参加者数(集約したデータが無い)	・県以外の民間・市町で実施しているイベント等の情報集約が不十分 ・パラスポーツ単独で行っても人が集まりにくい。	○民間・市町の状況把握・分析の実施 ○官民連携イベントの充実 ○民間によるイベントの運営・指導 ○健常者のスポーツイベントへの障害者の参加

協議項目	現状(データ等)	課題	具体的施策案
アスリートの発掘・育成・強化	○県立特別支援学校(28校)の運動部結成数 72団体(R5) *1校あたり2.6団体 【県特別支援教育課】 ※28校のうち1校は幼稚園・保育相談部だけの特別支援学校 ・県内特別支援学校在学者数 【学校基本調査】 R2:5, 879人(47校)、R3:5, 909人(47校)、R4:6, 029人(48校)	・特支生徒数が増加している中、運動部の結成数は県立校で概ね1校あたり2~3程度 ・スクールバスの下校時間との兼ね合いなどにより部活動への参加が困難	○特別支援学校へのスポーツ指導員派遣、スポーツ用具配備等の支援充実 ○昼休み中心の活動など運動部の結成を促す仕組みの構築 ○パラアスリート交流会の充実 ・応援協定締結企業と連携した一流アスリートとの交流会
	○ジュニア向けマルチサポート事業参加者数 R5:24人(7回:9月末時点) 【県ユニバ課】	・今年度から事業を開始した中、事業の周知が必要 ・保護者との接点を取りにくい。	○アスリート養成事業の民間・市町の状況把握・分析 ○マルチサポート事業の充実、参加者の掘り起こし
	○一般向けマルチサポート事業参加者数 H30 54回、801人→R4 38回、517人 【県ユニバ課】	・新型コロナウイルスによる影響も考えられるが、参加者数が減少	・取組の強化(民間スポーツ施設との連携、新種目の採用、実施地域の拡大、効果的な周知)
	○障害者向けアスリート養成講座の民間・市町での実施状況(県内の状況不明) 【県ユニバ課】	県以外の民間・市町での実施状況把握が不十分	・応援協定締結企業と連携したパラアスリートによる指導の充実 ・(ジュニア)特別支援学校を通じた保護者への情報提供
	○全国障害者スポーツ大会メダル獲得数 H30 107個、5位→R4 57個、10位 R5 69個、8位 【県ユニバ課】 ・R5参加者数:71人(神戸:1,阪神南:16,阪神北:8,東播磨:17,北播磨:3,中播磨:8,西播磨:13,但馬:0,丹波:4,淡路:1)	・兵庫選手団の継続したレベルアップが必要 ・当大会での結果が別の大会への出場権につながらないなどその後の強化につなげる仕組みがないとの指摘	○選手の強化支援の仕組みの構築 ・障害者・健常者の合同練習会の充実 ・県内スポーツ施設の優先利用(開館前利用等) ・継続的な練習機会の確保 ・身近な練習環境の確保
	○障害者が出場できる健常者のスポーツ大会(実施状況の詳細不明) 【県ユニバ課】	・競技力の高い障害者は健常者の大会に出場するようになっている一方、地域によっては出場できないケースがあるとの指摘	○障害者が出場できる健常者の大会の状況把握 ・県内障害者競技団体への情報提供 ○健常者の大会への出場機会の確保
	○兵庫県ゆかりのパラリンピック出場選手数(()内は兵庫に拠点【住所】を置く選手数) 【県ユニバ課】 2012 ロンドン 14名(10名,71%:金メダル1)→2020 東京 21名(14名,67%:銀メダル2、銅メダル2)	メダル獲得数は増加しているが、県内に拠点を置く選手の割合は減少	○選手の強化支援の仕組みの構築 ・障害者・健常者の合同練習会の充実 ・健常者の大会への出場機会の確保 ・県内スポーツ施設の優先利用(開館前利用等) ・継続的な練習機会の確保 ・身近な練習環境の確保
	○県内企業におけるパラアスリート在籍数 【県ユニバ課】 アシックス(本社:神戸):1名、新日本住設(本社:神戸):2名	県内企業のパラアスリート在籍状況の把握が不十分	○県内企業におけるパラアスリート在籍状況の把握・分析

協議項目	現状(データ等)	課題	具体的施策案
	<p>○県内大学におけるパラアスリートの受け入れ状況(県外大学:近畿大学、日本体育大学、順天堂大学)</p> <p>○J-STARプロジェクト(主催:独立行政法人日本スポーツ振興センター)</p> <p>「オリンピックやパラリンピックを目指す未来のトップアスリート」を発掘する機会となるイベント」</p> <p>R5:近畿の測定会会場(京都市障害者スポーツセンター)</p>	<p>県内大学におけるパラアスリート受け入れ状況の把握が不十分</p> <p>兵庫県では、測定会の実施施設がほとんどない。(神戸A型センター1箇所程度)</p>	<p>○県内大学の受け入れ状況の把握、分析の実施</p> <p>○県内で測定会を実施できる対象施設の拡大</p> <p>・応援協定団体、認定校などへの呼びかけ</p>
<p>障害者スポーツ指導者等の養成のあり方</p>	<p>○(公財)日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導者県内登録者数 【日本パラスポーツ協会】</p> <p>・H30 1,264人(全国:26,902人)→R4 1,319人(全国:27,607人)</p> <p>年齢構成 R4 10代3人、20代368人、30代217人、40代210人、50代230人、60代156人、70代63人、80代8人、90代1人</p> <p>圏域別 R4 神戸459人、阪神南193人、阪神北114人、東播磨141人、北播磨53人、中播磨75人、西播磨64人、但馬38人、丹波43人、淡路18人、その他(他府県等)61人 *R4年度当初1,259人</p> <p>*東京パラリンピック後、東京に行ってしまった指導者も多い。</p> <p>・公認指導者への活動希望調査において、活動したいと答える人の割合15%程度 【県スポーツ協会】</p> <p>○兵庫県障害者スポーツ指導者養成講習会受講者数(協会実施) 【県ユニバ課】</p> <p>H30 66人→R4 46人</p> <p>年齢構成 R4 10代0人、20代11人、30代4人、40代7人、50代16人、60代8人、70代0人</p> <p>圏域別 R4 神戸9人、阪神南6人、阪神北3人、東播磨10人、北播磨1人、西播磨10人、但馬3人、丹波3人、その他(他府県等)1人</p> <p>○障害者スポーツ指導者の派遣実績 【県ユニバ課】</p> <p>R4:出前講座(14回、53人:市町立小中学校11回、その他イベント3回)、パラスポーツ王国(19人)、ユニバーサルマラソン(17人)</p> <p>○(公財)日本パラスポーツ協会公認障がい者スポーツ指導員資格取得認定校数 【日本パラスポーツ協会】</p> <p>R4 県内12校(全国196校)</p>	<p>・指導者は増加しているものの、高齢化も進展し、全国的にもあまり増えていない。</p> <p>・新たな指導者の開拓についても、講習会受講者が減少している。</p> <p>・都市部の登録者、講習会参加者が多い傾向にある。</p> <p>・障害特性に対する指導者(健常者)の理解が不十分との指摘</p> <p>・資格取得の意味がない(初級)との指摘があり、知識があれば資格がなくても指導できる。</p> <p>・ボランティアで参加しても評価されない。</p> <p>・市町の小中学校からの要請はあるものの、特別支援学校や市町福祉部局等への指導者の派遣がほぼない。</p> <p>・認定校での資格取得後の活動状況の把握が十分にされていない。</p> <p>・認定校と競技団体等の連携不足により資格取得者の活躍機会が逸失されているとの指摘がある。</p>	<p>○障害特性に応じて指導できる指導者の育成</p> <p>・障害特性の理解を図る内容を盛り込んだ指導者講習会の実施</p> <p>○若い指導者を増やすための取り組み</p> <p>・特別支援学校と連携し、若い教員の講習会等への参加促進(都市部以外での講習会の実施)</p> <p>・大学への周知、理解促進による認定校の増</p> <p>○指導者活動の努力を評価する仕組みの構築</p> <p>・指導者の活動を具体的に広報発信</p> <p>・指導者の活動状況の把握、発信</p> <p>○指導者と特別支援学校・市町との連携機会の創出</p> <p>・各種パラスポーツ体験会等のイベント実施に際して、学校や市町への呼びかけを強化</p> <p>○認定校での資格取得後の活動状況把握・分析</p> <p>○資格取得者が活躍できる場の創出</p> <p>・認定校と競技団体等の連携(県や障害者スポーツ協会、認定校、応援協定締結団体、競技団体等のネットワーク会議の開催)</p>

協議項目	現状(データ等)	課題	具体的施策案
障害者スポーツ拠点施設のあり方	<p>○県、市町、民間のスポーツ施設数、利用状況、ユニバーサルデザイン化の状況 【県ユニバ課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R5施設数調べ：県 20、市町 246、民間 25（応援協定締結団体）、主なスポーツクラブ 55 約 350 ・圏域・市町レベルでの拠点となる施設が不明 	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設の障害者の利用状況やユニバーサルデザイン化等の把握が十分にされていない。 ・各施設において必ずしも障害特性に応じた対応がされていないとの指摘。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各施設の状況把握・分析 ○施設のユニバーサルデザイン化への取組状況の指標化（客観的評価） ○圏域・市町レベルでの拠点施設の必要性の検討 ○障害特性に応じた対応の検討 （ハード）身体障害者中心 （ソフト）知的、精神
	<p>○県全体のスポーツ施設の情報発信機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各施設毎の発信が主体 	<p>一元的に取りまとめて発信する主体がない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○県全体のスポーツ施設の情報集約機能の構築 ・各施設からの情報の集約
ハード面	<p>○県内の障害者スポーツ中核拠点施設の状況 【県ユニバ課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内2箇所 障害者スポーツ交流館 H18年開館、神戸市西区(プール無し) ふれあいスポーツ交流館 H17年開館、たつの市 ※県社会福祉事業団による指定管理施設 ・ユニバーサルデザイン化の状況（進んでいる） 車いす使用者トイレが無：0、車いす使用者駐車場が無：0、敷地入口から建物への段差有：0 プールを有する1施設のうち、入水スロープ無：0 	<ul style="list-style-type: none"> ・競技団体からはトレーニングでのプール利用を希望する声があがっている。 ・県がマルチサポート事業を当該施設で開催しているが、遠方の参加者からは参加が大変との声があがっている。 ・施設の老朽及び種目によっては不十分なトレーニングしかなできない等対策が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○現状の障害者スポーツ中核拠点施設の改修等 ・老朽化対策 ・対応できる種目の充実 ○新たな県内中核拠点施設の設置 ・圏域バランスを考慮して既存県立施設を中核拠点に位置づけ(プールを有する施設)
	<p>○県立スポーツ施設の状況(18) 【県ユニバ課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者による運営が進む。 ・ユニバーサルデザイン化の状況（一定進んでいる） 車いす使用者トイレが無：2、車いす使用者駐車場が無：2、敷地入口から建物への段差有：7 プールを有する3施設のうち、入水スロープ無：1 ・圏域・市町レベルでの拠点となる施設が不明 	<ul style="list-style-type: none"> ・競技内容にふさわしい施設整備がされているかの把握がされていない。 ・ユニバーサルデザイン化が不十分な施設もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ユニバーサルなスポーツ施設整備事業 ・ユニバーサルデザイン化を後押しする制度の検討 ・ユニバーサルデザイン化の進展状況調査 ・種目毎の利用状況調査 ・障害者の利用状況等実態調査 ・競技内容に応じた最適な施設整備の提案 ・圏域・市町レベルでの拠点施設の必要性の検討
	<p>○市町立スポーツ施設の状況(246) 【県ユニバ課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者による運営が進む。 ・ユニバーサルデザイン化の状況（一定進んでいる） 車いす使用者トイレが無：66、車いす使用者駐車場が無：97、敷地入口から建物への段差有：81 プールを有する79施設のうち、入水スロープ無：61 ・圏域・市町レベルでの拠点となる施設が不明 	<ul style="list-style-type: none"> ・競技内容にふさわしい施設整備がされていないとの指摘がある。(例：車いす陸上で陸上競技場のトラックが砂のため練習できないなど) ・ユニバーサルデザイン化が不十分な施設もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指定管理者がビジネスモデルとして管理施設においてパラスポーツに取り組む環境の整備 ○民間施設へのソフト面も含めた支援の検討

協議項目	現状(データ等)	課題	具体的施策案
	<p>○民間スポーツ施設の状況(障害者スポーツ応援協定締結企業・大学・団体の25施設(支援内容:練習場の提供、技術指導)【県ユニバ課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザイン化の状況 車いす使用者トイレが無: 6、車いす使用者駐車場が無: 7、敷地入口から建物への段差有: 14 23施設のうち、一般開放している施設: 10施設、そのうち障害者優先利用の制度がある施設: 1 ※回答無し: 2 <p>○民間スポーツクラブ施設の状況(55) 【県ユニバ課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザイン化、障害者の利用状況 不明 <p>○大型スポーツ施設(上記、県・市町立・民間施設のうち体育館・プール・グラウンド全てを有する17施設)の状況【県ユニバ課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 圏域毎の大型施設の状況 神戸2(市立)、阪神南1(民間)、阪神北4(市立)、東播1(市立)、北播3(市町立)、中播1(市立)、西播2(県市立)、但馬2(市立)、丹波0、淡路1(市立) ※民間は、障害者スポーツ応援協定締結企業の施設(支援内容:練習場の提供、技術指導) ユニバーサルデザイン化の状況(一定進んでいる。) 車いす使用者トイレが無: 1、車いす使用者駐車場が無: 1、敷地入口から建物への段差有: 4 プールへの入水スロープ無: 13 	<ul style="list-style-type: none"> 民間は、障害者への特別な対応、事故がおこった場合を想定してしまう。(経営の立場が優先) ユニバーサルデザイン化が不十分な施設もある。 障害者の利用が進んでいない。 民間スポーツクラブ施設は利益を上げる必要があることから、障害者の施設利用を拒むため、ユニバーサルデザイン化を行っていないとの指摘がある。 民間は、障害者への特別な対応、事故がおこった場合を想定してしまう。(経営の立場が優先) ユニバーサルデザイン化や障害者の利用がどの程度進んでいるのかの把握が十分になされていない。 各施設の種目毎の利用状況、ユニバーサルデザイン化の進展状況の把握が不十分。 ユニバーサルデザイン化が不十分な施設もある。 障害者の利用がどの程度進んでいるのかの把握は不十分 	
ソフト面	<p>○応援協定締結団体(特支、企業、大学、団体等)の体育施設における状況 【県ユニバ課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援員(障害者スポーツ指導員)による活動支援状況 H30: 101回(利用施設:各特別支援学校、出石精和園、アシックス) R4: 107回(利用施設:各特別支援学校、出石精和園、) R4支援員の就任協力者の状況:全16名(30代:4人、40代:1人、50代:4人、60代:6人、70代:1人) 同体育施設(応援協定締結企業・団体の23施設(支援内容:練習場の提供、技術指導))で、一般開放している10施設のうち、使用料を徴収している施設:4 そのうち、障害者減免制度を有する施設:0 	<ul style="list-style-type: none"> 休日を中心とした一定の活動支援を行っているが、近年は支援員や利用施設が固定化している。 民間では障害者減免が進みにくい状況にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ユニバーサルなスポーツ施設整備事業 種目毎の利用状況調査 障害者の利用状況等実態調査 利用状況を踏まえたソフト面での支援策の検討(施設利用料や利用可能時間等について配慮) ソフト面(受け入れ側)での人材育成 ○体育施設等への障害者対応支援員派遣事業 当事業に協力してくれる支援員の継続的な確保(指導者への継続的なアプローチ) 競技団体への運用移行の検討 ○協定締結団体における取組の強化

協議項目	現状(データ等)	課題	具体的施策案
	<p>○県立、市町立スポーツ施設のうち障害者減免を実施している施設の割合 県立 95 %、市町立 48.8 %</p> <p>○各施設において障害者が施設に来られたときの対応状況(具体の状況不明)</p>	<p>市町立において障害者本人への減免が十分に実施できておらず、障害者が身近なスポーツ施設を気軽に利用できない状況にある。</p> <p>プール利用において、健康志向の高齢者等との兼ね合いで障害者優先とならなくなったとの指摘。</p>	<p>○県立・市町立スポーツ施設における障害者使用料の減免拡充</p> <p>○各施設の対応状況の把握、分析</p> <p>○利用状況を踏まえ、障害特性に応じたソフト面での支援策の検討 (施設利用料や利用可能時間等について配慮)</p> <p>○指定管理者がビジネスモデルとして管理施設においてパラスポーツに取り組む環境の整備</p>
その 他の 拠点	<p>○特別支援学校の状況 ・障害者スポーツ推進拠点として、県障害者スポーツ協会に登録されている県立特別支援学校の数 19校(圏域別：神戸3,阪神南1,阪神北3,東播磨2,北播磨1,中播磨2,西播磨3,但馬2,丹波1,淡路1) ・拠点施設としての活用状況 (R4：98)</p> <p>○県内大学の状況 ・障害者スポーツ応援協定締結大学(支援内容：練習場所の提供、技術指導) 9大学 ・パラアスリートの受け入れ状況 不明</p> <p>○廃校の状況 ・県内一部の市町では廃校の体育館をスポーツ施設として利用</p> <p>○総合型地域スポーツクラブ ・R4登録クラブ数17：神戸6,阪神5,播磨東3,播磨西1,但馬0,丹波1,淡路1 ・障害者が気軽に参加できるスポーツに取り組んでいる「スポーツクラブ21ひょうご」の割合 H24：2.2%→R1：59.9% (兵庫県スポーツ推進計画の取組状況)</p>	<p>・一部施設では学校OBの団体による利用もあるが、近隣の団体による土・日利用が中心</p> <p>・大学の運動施設の一般開放が進んでいない。</p> <p>・パラアスリートの受け入れ状況の把握が不十分</p> <p>県内でどれだけの廃校の利用余地があるのか把握が不十分</p> <p>・障害者の受け入れは進んできたものの、クラブからの積極的なプロモーションが行われている訳ではない。</p> <p>・総合型地域スポーツクラブの活動実態の把握が不十分</p>	<p>○特別支援学校施設の活用促進 ・卒業後にスポーツ活動拠点として母校を活用できる仕組みの構築</p> <p>○県内大学のパラアスリート在籍状況把握・分析</p> <p>○県内大学スポーツ施設の活用促進 ・一般開放促進に向けた大学の理解促進 ・大学におけるパラアスリート受入の促進 ・就職先の転換など兵庫県に残る仕組みの構築</p> <p>○廃校利用可能性の状況把握・分析</p> <p>○廃校の有効活用 ・住民の身近な活動場所、パラスポーツ道具の保管場所など</p> <p>○障害者の受け入れ等活動状況の把握・分析</p> <p>○特別支援学校生徒の放課後活動の受け皿となるなど障害者の積極的な受け入れ促進</p>